

健全母性育成事業の新たな展開に関する研究

— 地域ぐるみの思春期健全育成の試み —

伊藤 桂子

要約：昭和61年度から始められた春日井市思春期教育研究委員会の事業が平成3年度をもって、その第一次推進計画を終了する。従ってこの6年間にわたる事業の成果をまとめるとともに、その評価を行い、第二次推進計画（平成4年度から3年間）を立案した。

見出し語：地域ぐるみの思春期教育

はじめに：春日井市（人口約27万人）は、婦人対策懇話会からの提言（10代の妊娠中絶を防止するための性教育の必要性）を受け、青少年の健全育成を願って官民一体となった思春期教育研究委員会を発足させ、第一次推進計画を策定し、6年間にわたって様々な事業を展開してきたので、その概要について報告する。

事業の概要：

- 1 基本方針：行政が主体となって行う性教育のあり方を以下の如く決定した。
 - (1) 地域における全体的合意が必要であり、かつ、地域ぐるみで実施する。
 - (2) 思春期は長いライフサイクルの一時期であり、この時期の性教育が中心になるとしても、幼児期から成人期に至る生涯学習の一環と捉えて、健康を視点に具体的な教育をする。
 - (3) 思春期の性意識や性行動を否定的にコントロールするのではなく、性を人間の生の本質と捉え、自己管理能力の確立を支援する。
- 2 組織：研究委員会は助役を会長に庁内関係部（市民部、福祉部、教育委員会）の他地域の保健所、医師会、校長会、PTA等関係者により組織され、その中に家庭学校、社会教育部会の3部会を編成するとともに、その下に実務担当者からなる各専門小委員会を設置して、各種の具体的事業に取り組んだ。
- 3 予算：第一次事業に要した予算は昭和61年度 683千円 62年度 3,224千円 63年度 3,871千円 平成元年度 3,031千円 2年度 3,016千円 3年度 2,262千円である。
- 4 事業：第一次の主な事業（表1）
- 5 評価のためのアンケート調査
 - (1) 小中学校における性指導の概要（表2）
 - (2) 作成資料の評価及び活用状況（教務主任）（表3）
 - (3) 小学生の性教育に対する反応（表4）
 - (4) 中学生の性教育に対する反応（表5）
 - (5) 性指導推進上の障害（教務主任）（表6）
 - (6) 保護者の反応：性教育の必要性（家庭及び学校）を認める保護者は多いが、学校で行われている性教育の内容を知らない保護者が目立った。

愛知県県民生活監

考察：

1 委員会事業について、前半に比べ後半に入り、組織的な活動は弱まったが、毎年開かれる総会後の講演会は、市長、議長及び各委員各小中高の校長や教務主任の他一般市民の参加を得、社会的コンセンサスの場となっている。なお、家族計画協会で開催される思春期セミナー（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲコース）への毎年2名（養護教諭、保健主事）の派遣は、所属校のレベルを上げたが全体的にその活用が今一步であった。現在10名となり、今後その活用が期待できる。

2 家庭教育部会について

小学校の保護者へのアンケート調査結果をもとに作成された「わが家の性教育」は、新聞、テレビにも取上げられ社会的にも評価されたが、学校などでの活用はやや少なく、また、保育園におけるモデル授業はよく工夫された内容で、園児、保護者の評判も良かったが他園へ波及することが出来なかった。

3 学校教育部会について

6年間に中学1校を除いて、全小中学校に性指導が導入され、また、「生徒指導の手引き」は初版に続いて改訂版も出版され、小中学校の授業に生かされた。

性指導に力を入れた学校では、性についての教えを大事なことと捉える児童が多く、それは特に女子に著しかった。中学生ではその比率が低くなるが、やはり女子には反応が認められる。

性情報源は、小学生では先生からが多く特にモデル校ではそれが著しいが、中学生になると、友人からが増え、家人からが減少した。

なお、性指導推進上の障害を教務主任に尋ねたところ、小、中学校ともに児童の個人差のため集団指導が困難とするもの及び教師自身の認識不足が大きい要因を占めたが中学校

では教材の不足、時間配分の困難さもその理由とされている。いずれも今後の取組みの中で、障害を克服したい。

4 社会教育部会

電話相談は、委員会発足前（昭和59年度）から開設されていたが、過去の相談事例を中心にまとめた「性に関する電話相談Q&A」を編集する過程で、相談員全体の意思統一が図られた。

計画されたモデル事業所、モデル地区は実施できなかった。

5 全体的に：

前半に比べ後半に組織的活動が弱まったのは、6年間という少し長すぎる計画期間の間に担当職員の異動が著しかったためと考えられる。これがモデル保育園のその後の展開、モデル地区、モデル事業所等が計画倒れに終わったことにも影響していると考えられるが、これはある意味では市行政機能の限界とも考えられ、高校や地域への取組みは保健所の指導や実践が必要であろう。

また、作成した資料や収集した参考図書類の活用、養成された指導者の活用が不十分で、第二次にはその活用が課題である。

おわりに：

第二次の計画策定（表7）にあたり、研究委員会は推進委員会と名称を変え、期間も3年間に短縮した。

なお、保護者をはじめ市民全体へのPRのため、広報紙面を活用するとともに、平成3年2月オープンした青少年、女性センターにおいて、思春期保健相談や、参考図書の一般公開を開始することとしている。

表1 思春期教育研究委員会の主たる事業
(昭和61～平成3年度)

部会	実施事業
思春期教育研究委員会	<ul style="list-style-type: none"> 委員会開催（第一次全体計画立案・推進） 思春期講演会開催（毎年度実施） 思春期教育指導者養成（2名×5年間＝10名） 各種意識調査の企画及び報告書作成 性に関する参考図書収集 評価（学校における性指導に関する各種調査（H3）） 第二次計画立案
家庭専門教育会	<ul style="list-style-type: none"> 部会開催（事業計画立案・推進） 保育園児の保護者 1839 名に対する幼児の性に関するアンケート調査 小学生の保護者 2391 名に対する児童の性に関するアンケート調査 わが家の性教育 幼児期編（S 62）、思春期前期編（S 63）作成 モデル保育園における実践指導
専門小学校委員会	<ul style="list-style-type: none"> 部会開催（事業計画立案・推進） 高校生の性に関するアンケート調査 生徒指導の手引、初版(S 63)、改訂版(H3) 高校生の性教育（ホームルームにおける手引）(H元) モデル小学校・中学校における実践指導（S 63, Ⅱ）、成果発表会(H2) 高校におけるモデル授業の実施(H3)
社会教育部会	<ul style="list-style-type: none"> 部会開催（事業計画立案・推進） 青少年に関する総合実態調査(S62) 性に関する電話相談Q & A (S 62) 思春期電話相談（毎年度） 思春期セミナー講師派遣

表2 平成3年度 性指導の概要

項目	小学校 (%)	中学校 (%)	
指導者	学級担任	12 (32.4)	6 (42.9)
	養護教諭	8 (21.6)	3 (21.4)
	保健体育担当	—	2 (14.3)
	協力態勢	17 (46.0)	3 (21.4)
学年当り時間数	1～5	3 (8.1)	5(2) (35.7)
	6～10	23 (62.2)	7 (50.0)
	11～15	9 (24.3)	—
	16～	2 (5.4)	2 (14.3)
指導形態	男女共習	4 (10.8)	6 (42.9)
	男女別習	2 (5.4)	2 (14.3)
	共習+男女別習	8 (21.6)	6 (42.9)
	共習+女子別習	23 (62.2)	—
校内活動のテーマ	現職教育	12 (32.5)	3 (21.4)
	学校保健委員会	8 (21.6)	3 (21.4)
	親教育+学校保護会	7 (18.9)	2 (14.3)
	共に助けあおう	10 (27.0)	5 (35.7)
	その他	(2)	1 (7.2)
学校数	37校	14校	

※ 中学校15校中1校未実施
()内の2校は、2時間以内

表4 小学生の性教育に対する反応

小学生 (4,5,6年生)	T 校 (%)		A 校 (%)	
	男子	女子	男子	女子
学校生活				
楽しい	133(63.0)	127(66.1)	165(73.3)	150(70.8)
どちらとも	65(30.8)	50(26.0)	47(20.9)	52(24.5)
楽しくない	13(6.2)	14(7.3)	13(5.8)	9(4.2)
家庭生活				
楽しい	168(79.6)	157(81.8)	163(72.4)	162(76.4)
どちらとも	37(17.5)	29(15.1)	49(21.8)	43(20.2)
楽しくない	5(2.4)	5(2.6)	13(5.8)	6(2.8)
大 事	67(31.8)	89(46.6)	89(39.6)	129(60.8)
当り前	30(14.2)	23(12.0)	21(9.3)	11(5.2)
何と勘弁か	73(34.6)	36(18.9)	47(20.9)	32(15.1)
細かい、いやしい	24(11.4)	33(17.2)	42(18.7)	33(15.6)
勘弁か	14(6.6)	10(5.2)	19(8.4)	5(2.4)
その他	5(2.4)	5(2.6)	10(4.4)	7(3.3)
テレビ映画	18(8.5)	23(12.0)	21(9.3)	16(7.5)
マンガ(英雄)	24(11.4)	30(15.6)	13(5.8)	24(11.3)
成人向本雑誌	6(2.8)	3(1.6)	2(0.9)	2(0.9)
先生	81(38.4)	78(40.6)	135(60.0)	136(64.2)
友だち	16(7.6)	14(7.3)	13(5.8)	17(8.0)
家の人	46(21.8)	76(39.6)	30(13.3)	66(31.1)
その他	12(5.7)	8(4.2)	9(4.0)	4(1.9)
児童数	211	192	225	212

T校 (性指導時間：共習2時間+女子のみ2時間)
A校 (性指導時間：共習17時間、モデル校)

表5 中学生の性教育に対する反応

中学生 (1,2,3年生)	K 校 (%)		M 校 (%)	
	男子	女子	男子	女子
学校生活				
楽しい	234(59.7)	245(61.3)	227(52.3)	203(44.4)
どちらとも	133(33.9)	139(34.8)	154(35.5)	120(26.3)
楽しくない	25(6.4)	16(4.0)	51(11.8)	36(7.9)
家庭生活				
楽しい	144(36.7)	210(52.5)	174(40.1)	241(52.7)
どちらとも	225(57.4)	159(39.8)	218(50.2)	184(40.3)
楽しくない	21(5.4)	29(7.3)	40(9.2)	30(6.6)
大 事	67(17.1)	53(13.3)	66(15.2)	111(24.3)
当り前	64(16.3)	60(15.0)	71(16.4)	71(15.5)
何と勘弁か	201(51.3)	139(34.8)	207(47.7)	211(46.2)
細かい、いやしい	19(4.8)	53(13.3)	32(7.4)	26(5.7)
勘弁か	22(5.6)	32(8.0)	26(6.0)	20(4.4)
その他	20(5.1)	2(0.5)	30(6.9)	15(3.3)
テレビ、雑誌、本	74(18.9)	63(15.8)	72(16.6)	74(16.2)
雑誌、本	67(17.1)	106(26.5)	74(17.1)	111(24.3)
友だち	181(46.2)	187(46.8)	218(50.2)	182(39.8)
先生	63(16.1)	64(16.0)	64(14.7)	84(18.4)
家の人	4(1.0)	22(5.5)	6(1.4)	25(5.5)
先輩	30(7.7)	19(4.8)	18(4.1)	13(2.8)
その他	23(5.9)	13(3.3)	19(4.4)	6(1.3)
生徒数	392	400	434	457

K校 (性指導時間：0)
M校 (性指導時間：共習24時間)

表3 作成資料の評価・活用状況（教務主任）

項目	小学校 (%)		中学校 (%)		
	初版	改訂版	初版	改訂版	
A	区 分				
	実践的	9(24.3)	23(62.2)	2(14.3)	5(35.7)
	読みやすい	13(35.2)	10(27.0)	5(35.7)	8(57.2)
	活用し難い	3(8.1)	—	3(21.4)	—
	具体性に乏しい	9(24.3)	—	3(21.4)	—
	その他	3(8.1)	4(10.8)	1(7.1)	1(7.1)
B	活用している	11(29.7)	4(28.6)		
	活用していない	20(54.1)	5(35.7)		
	知らない	6(16.2)	5(35.7)		
C	活用している	8(21.6)	6(42.9)		
	活用していない	25(67.6)	6(42.9)		
	知らない	4(10.8)	2(14.3)		
学 校 数	37校		14校		

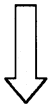
A：性に関する指導
初版（S63）改訂版（H3）
B：わが家の性教育
幼児期編、思春期前期編
C：性に関する電話相談

表6 性指導推進上の障害（教務主任） 複数回答

項目	小学校 (%)	中学校 (%)
集団指導が困難	17 (45.9)	6 (40.0)
教師自身の認識不足	16 (43.2)	10 (66.7)
教師間の意識不統一	12 (32.4)	2 (13.3)
マスコミ情報の氾濫	13 (35.1)	4 (26.7)
家庭の協理解解不足	2 (5.4)	1 (6.7)
適当な教材がない	8 (21.6)	7 (46.7)
寝た子を起こす	2 (5.4)	3 (20.0)
時間配分が困難	9 (24.3)	6 (40.0)
その他	3 (8.1)	—
学 校 数	37校	15校

表7 第二次推進計画（平成4～6年度）

部 会	内 容
思春期教育推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 委員会開催（第二次全体計画立案・推進） 思春期講演会、シンポジウム開催（毎年度） 思春期教育広報（広報かすがい掲載） 最終年 第二次事業の全体評価と第三次計画の立案
専門部会（各専門小委員会） 家庭教育部会	<ul style="list-style-type: none"> 部会開催（事業計画立案・推進） 出版物（わが家の性教育）のPR活用 モデル保育園の実践・指導、成果発表会 →全保育園、幼稚園への波及 各保育園保護者懇談会開催
学校教育部会	<ul style="list-style-type: none"> 部会開催（事業計画立案・推進） 授業モデルの検討（学習指導要領・教科書と生徒指導の手引き改訂版との整合性） 教材、教具の検討 新手引書によるモデル小中学校の実践指導成果発表会
社会教育部会	<ul style="list-style-type: none"> 部会開催（事業計画立案・推進） 思春期電話相談継続 思春期保健相談開設（於青少年女性センター） 性に関する情報提供（参考図書一般公開他） 春日井保健所との思春期教育連携



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:昭和 61 年度から始められた春日井市思春期教育研究委員会の事業が平成 3 年度をもって、その第一次推進計画を終了する。従ってこの 6 年間にわたる事業の成果をまとめるとともに、その評価を行い、第二次推進計画(平成 4 年度から 3 年間)を立案した。